

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	東みよし町立昼間小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域の実態から魅力を創造するキャリア教育の実践

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動の意義

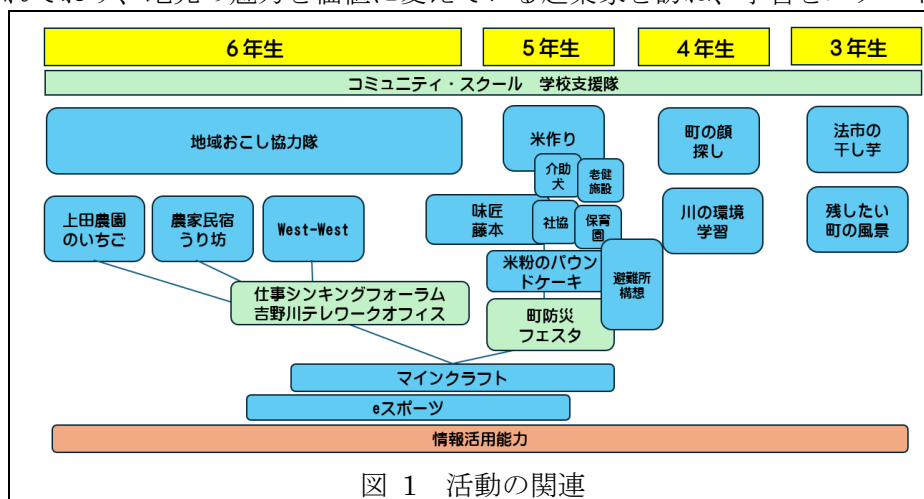
本校では、CS（コミュニティスクール）の活動を通して、地域の大人達が子供達の活動の支援に積極的に関わってくれている。小学校でのキャリア教育は、子供達の自己肯定感をしっかり育む上で大切な活動という位置づけのもと、CSで関わってくれる多様な他者の存在を意識して日々生活している。このような恵まれた環境を生かし、子供達にキャリア教育の種を植え、芽を育てていきたいと考える教職員集団とともに、子供達に夢ある未来を見せていきたいと考えている。

コロナ禍で様々な常識が変化し、仕事のあるところに行くのではなく、今住んでいるところで仕事に従事することや、移住者が、住んでいる場所に仕事を持って来て、地域と交流を深めるといった、地域社会へのよい循環が動き始めている。そして、このことは、教職員や保護者の持つキャリアに対する意識を転換する大きな機会となっている。

そこで、このような好条件の中で、今年度、地域の産業からキャリア教育を考える実践を行うようにした。本校出身の地域おこし協力隊の方の話聞き、「仕事」と「地元」を結びつけることからはじめた。子供達の職業観はかなり固定化されており、地域の魅力を価値に変えている起業家を訪ね、学習をスタートさせた。これらの実践は、3年生の地域学習からはじまり、学年が上がる毎にその関係性をうまくいかしながら、子供達が地域に目を向ける機会を増やすように関連づけた。

各学年の活動のつながりは図の通りである。これらのカリマネをもとに、それぞれの学年間で本年度の活動を行った。

取り組みでは6年生は地域の産業や起業した方の生き方を中心に、5年生は地域の防災に関する人とのつながり、3・4年生は、地域をより深く知るための活動となるようにした。また、全学年を通して、基盤となる情報活用能力の育成を意識した取り組みとした。



2 活動報告

(1) 農家民宿うり坊

山間部は、イノシシの被害も深刻であるが、それらのデメリットをジビエ料理という価値に高め、農家民宿という形で多くの観光客を受け入れている民宿である。生き物の命をいただくことの意味や、昔なが

らの農村の生活がいかにか SDGs につながっているかを体験した。

(2) ツリートレッキング

山間部の生い茂った木々の大自然を観光資源に変え、新しい価値を見いだした施設では、ありのままの自然をアクティビティに作り上げることの素晴らしさを感じることができた。

(3) 干し芋づくり

昔から山間部で生産されている干し芋作りには、その場所でしか生産できない理由がある。3年生が、実際にその畑に行き、収穫や、加工を地域の方と一緒にいった。自分たちが学校でつくって来た干し芋との違いに愕然とし、その作り方の秘密に迫ることができた。

(4) いちご農家

地方における事業継承問題は深刻で、後継者を探していたいちご農家をIターンで引き継ぎ、地元で生産している上田農園に行き、生産の苦労や、出荷の工夫等、起業という視点で話を聞くことができた。

(5) 米作りから、お米の加工

今回5年生は、田植えから稲刈りまでを地域の方とともに、手作業で行わせてもらった。ほとんどの子供が未経験の中、充実した体験をすることができた。地域の料亭の方に協力を仰ぎ、炊飯や調理を一緒に行ったあと、米の消費拡大に繋げるため、米粉のパウンドケーキを製造し、6次産業の体験をした。

(6) 誰もがすごしやすい避難所

5年生の防災学習では、町の危機管理課や社会福祉協議会と協力し、誰もがすごしやすい避難所について、学習を進めた。障害のある方、乳幼児、高齢者、女性など、地域にすむ方々に聞き取りをする中で、地域にどのような施設があるのか、どのような人がいるのか等を改めて認識することができた。そして、自分たちの学校が避難所となった場合に、どのようなことを考えればよいか学習した。その成果は、マイクラフトで表現し、広く多くの人に見てもらおうようにした。

(7) 町の顔探し

町の中には、人の顔に見える景色がたくさんある。4年生では、民家やお店、工場など町にある様々な建物に興味を持たせるために、町を探検しながら、人の顔に見える写真を撮影し、大型のパネルに入れて、校内や地域の施設に展示した。

(8) 残したい町の風景

3年生は、メディアリテラシーの一環として、発信する責任を学ばせるために、「残したい町の風景」を校区で撮影した。撮影の意図と、見る側の見え方を意識して、地域にあるたくさんの自然や、何気ない風景を写真に収めた。そして、これらの作品を校区のスーパーマーケットに展示し、地域の方とのつながりを持たせるきっかけとした。



図2 ツリートレッキング施設



図3 パウンドケーキデザイン



図4 展示用写真フレーム作成

3 実践の成果

2月には、地域のコワーキングスペースを使い、「三好地域の魅力を活かした仕事シンキングフォーラム」を開催した。地域の方も大勢来てくださり、今年度体験した活動について6年生が概要を発表し、一人一人の感想などを発表した。ある児童は、「この学習を通して、ふるさとの魅力やその温かさを再発見しました。自然や気候を活かした地域の食材を活かした仕事、東みよしでしかできない仕事がたくさんありました。そして、どれも全部人を幸せにできる仕事だと感じました。将来は、この人達のように人を幸せにできる仕事に就きたいと思いました。」という感想を述べた。まさに、聞



図5 フォーラムでのポスターセッション

いている地域の方も思わず涙ぐんでしまう瞬間だった。この言葉に代表されるように、キャリア教育を意義あるものとするためには、ふるさとの魅力を今の時期に感じておくことが大事なのだといえる。そして、そのためには、地域の人材、施設、起業家の存在など、多くの地域のコンテンツを知り、その方とコラボレーションできる機会を学校が計画的に用意することが大切であると感じた。